実行委員長ごあいさつ

震災後4年目1999年に始まったこうべ1ウォークは、交通規制のため2002年の第4回から有志参加型に切り替えたが、6年前の2012年から来客の持続も加わって、広く一般の方々と共に歩く形を再開し、今回で合計20回目を迎える。皆で歩いて寄付するというこのウォークのアイディアは、神戸復興塾のサンフランシスコ・エイズウォーク提唱のお土産である。

1ウォークの起源は、神戸の伝統的な西部の街地の7町を巡っている。震災のため、古いまちの面影は希薄になったが、住民の絆は消えていない。まちの復興はひとの復興だという貴重な教訓を、是非、この機会に確かめていただきたい。

2016年4月の熊本地震被災からの復興も途についたところ、一昨年の鬼怒川大洪水復旧復興はこれから。神戸からの支援・交流も、23年前の大震災経験をその根点に。

こうべ1ウォーク2018実行委員会
実行委員長　小林 郁雄

しみん基金・KOBEごあいさつ

「こうべウォーク2018」へご参加頂き誠にありがとうございます。

「しみん基金・KOBE」は、23年前の阪神・淡路大震災からの復興のプロセスにおける教訓から、市民による自発的な助け合い活動を市民自らが支える日本初の市民ファンドとして誕生しました。以来18年間で延べ184団体に総額約6,437万円を助成し、地域における支え合いの連鎖を産み出してきました。これからも、「絆」を創り育いていくことが、当基金の使命と考えています。頂きました募金は、経費を除いて当基金へ寄付され、毎年実施している助成事業を通じて、様々な分野の市民活動団体へ助成させて頂きます。

今後とも、何卒ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

認定特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ
理事長　成 正輝

①大国公園―震災による大火の延焼を防ぎ、地区の人々の避難所となった。倒壊した長田の石を使った記念碑、震災直後の街の様子をステンレス板のプレートに焼付けた「協働のモニュメント」、「復興の基準点」がある。

②三菱東区画整理地区―震災前は、商店街と軍需産業等からなる利便性の高い住宅地であったが、今回の地震ではほぼすべての建物が焼失するという大きな被害を受けた。

③カトリックたかとり教会①―多くのボランティアの拠点となった教会。震災で焼失したが、2007年4月に再建された。「ハーバーハーム・たかとり」は自場に移設された。NPO法人たかとりコミュニティセンターが多文化共生の拠点となり多くのNPOが活動している。

④野田北部まちづくり協議会―1999年3月の「コミュニティ宣言」後、まちづくりの活動をハードからソフトへと移行し、地域をネットワークする組織「野田北ふるさとネット」を創設。（活動にみる活動とくひとづくり・仲間づくり・生活づくり）の思想でコミュニティでのくらしがやすいまちづくりを目指している。

⑤若葉公園―震災復興区画整理事業で整備された街区公園。住民の意見で道路を挟んで2つの公園が隣接する。道路を閉鎖すると一体化して大きく使える。毎年に防災訓練が行われ、地域の防災拠点になっている。

⑥若松公園と鉄人28号―次期の長田駅南再開発事業として、防災拠点とするために若松公園が大きく整備されている。公園内には、横山光輝氏の代表作の一つである「鉄人28号」が、体長10mという超ビッグサイズの鋼鉄製モニュメントとして2009年9月に設置された。

⑦駒ヶ林駅南再開発地区―震災により甚大な被害を受けた市街地の復興と防災公園等を中心とした防災拠点の構築、地域の活性化や個性に応じたふさわしい都市機能の整備を図るために実施される事業が完成。新入居の商店が残っている。

⑧「鎮魂と復興のベンチ」（神戸の壁）―若松町の公園市場の防火壁は、神戸大空襲と大震災の大火に耐え、歴史の証人として「神戸の壁」と呼ばれ震災の象徴となった。再開発事業で移転が決まり、地中の基礎部分が柱の形にデザインされ、「アスチにつながる地下通路」に展示されている。

⑨大正筋商店街―多くの店が全壊し壊滅的な被害を受けた。モダンな商店街として再建され、大正筋商店街らしい人情あふれるイベントが多種開催されている。大正時代の生活空間である土間と居間を再現した「大正ハイカラ長屋住宅手」が開設された。

⑩地域人材支援センター（旧二葉小学校）①―1929年に建設され、戦災・震災を乗り越えた地域のシンボルである旧二葉小学校が、NPO法人ふたばを指定管理者として、市民の地域活動への参加支援や地域活性化を図る人材育成の拠点として活用されている。震災関連の展示や神戸のさい写真アーカイブもある。

⑪せせらぎ―まちづくり協議会の提案を受けて整備を進めてきたもので、高取山の湧水を利用している。せせらぎの流れる歩道にはベンチを設置しており、市民が集う憩いの場となっている。

⑫シューズプラザ①―震災から長田のケミカルシューズ産業の復興と靴のまちながたの活性化を目指し、『シューズの元気は、神戸の元気だ！』をキャッチコピーに誕生。各種シューズ展や企画展を実施している。

⑬アジアギャザリー神戸―アジア雑貨の店が集まる商業ビル。約3千人のアジア系外国人が住む長田で、アジアとの絆をテーマにした中核施設として2000年7月にオープンした。

⑭水笠通公園―地域の防災公園（長田駅北地区震災復興土地区画整理事業）としての役割を持ち、「100t防災水槽」が整備され、災害の語りを次代に伝えるために「震災復興の碑」が建立された。

⑮駒ヶ林駅北区画整理地区―震災前は、商業・業務施設やケミカルシューズ（靴底製造）に連関し、靴底、鞄、靴紐完成品などが、地域内の分業でなされていた。）等の工場と混在する形で戸建住宅等が立地する住商工混在地域であったが、今回の地震で約3割の建物が大きな被害を受けた。
震災後は、そうした分業体制も解体したが、今も靴紐の先にとめる「ハトメ」の製板や、鞄、底をつくる陶型鋳物の工場などが残っており、自動車の下請けなど多種な仕事を続けている。家に行くと右手にアジックス（黄い植物）も見かける。

⑯新湊川…震災後、多くのボランティアグループが川辺い公園に拠点をおき活動した。その後、2度にわたって川が氾濫したが、2000年に新湊川シンボルが改築された。

⑰御蔵東・西区画整理地区―震災前は軍需産業が残り市場・商店街や室内工業を中心とした中小規模の工場が立地する利便性の高い住宅地だったが地震で多くの建物が大きな被害を受けた。

⑱古民家を移築した集会所―各住町（保倉美町）に建てられていた古民家を移築して作られた御蔵通5-6-7丁目自治会集会所。御蔵地区の住民たちの交流を深める場となっている。

⑲御蔵南公園―震災時、火災のひろがりを防止し、公園内に避難した人を火災から守ったクスノキがある。震災時は10mあったが、焼けたその上部を切り取って多～8.5mとなっている。

⑳御蔵北公園―地域の方々で整備した公園で、この地域の120人がなくなった場所を示す地図が刻まれている「鎮魂」のモニュメントが設置され、焼け残った電信柱が保存されている。

㉑共同住宅「みくらら」①―12件が集まって建てた共同住宅。1階の地元企業の協力による「地域コミュニティスペース・プラザ5」を拠点に、まちコミュニケーションはまちづくり活動を展開している。

㉒KOBE三国志ガーデン―阪神大震災後のまちおこしの一環として「三国志」をテーマとした展示施設の一つで、三国志演義をテーマとした「三国志ジオラマ館」「三国志体験館」「三国志交流館」の4施設から構成された五感で楽しめる複合型のミュージアム。

㉓震災ミュージアム―震災で芽生えた様々な助け合いの心をいつまでもとどめ、防災知識の普及啓発に努める場所として、また震災の記憶・体験・教訓を伝える拠点として整備された。

㉔KOBE鉄人三国志ギャラリー―観光客に例を紹介してもらおうと2009年12月にオープン。鉄人28号の製作映像の上映や、三国志に登場する軍師・諸葛孔明の等身大オブジェを展示している。

㉕六間道商店街―かつては神戸有数の繁華街だったが、周辺企業が撤退し大震災もあって店舗が減少した。「六間道お百度マイル」の取り組みや、横山光輝氏「鉄人28号」の作者の像等を発信する実験展示会場「六間道なごみチャンス」、三国志をテーマにした新名所「魏武帝廟」がある。

㉖丸五市場①―80年以上の歴史を誇り、伝統の仕入れを加工・販売技術を持つ、こだわり専門店が多い。アジア系食品や物品を扱う店もあり、他の市場にない楽しい買い物の場だと評されている。昔ながらの下町の人情と温もりが残る市場。

㉗本町商店街―震災で多くの店舗が倒壊したが、「ビッグハート」をシンボルとして、ふれあいコンサートや春祭りこどもしまつり、陶芸教室・絵付け教室などのイベントを多数実施している。修学旅行生対象の絵手紙教室も好評。

㉘神戸協同病院①―震災では献身的に夜中まで診療にあたり、震災後の復興には地域住民と一緒にまちづくりに参加してきた。地域から頼られる存在になることを標榜として、地域住民とコミュニケーションをとり、病院という枠を超えて地域のまちづくりに力を入れている。